

## X I 総合看護研究施設

### 1 位置づけ

本研究施設は、1991年4月1日に設立された。設立の目的は、建学の精神に則り、看護の分野に関連する諸科学を科学的、技術的、総合的に研究し、看護の発展に寄与貢献することである。

#### (1) 看護の基礎的検討

看護のユニフィケーションをめざして、看護教育と臨床医学の連携について分析し、総合看護の実践にふさわしい教育施設としていく。

#### (2) 看護教育に関する研究

- ① カリキュラムの研究
- ② 看護教育制度と方法に関する研究
- ③ 教育評価の測定に関する研究

#### (3) 看護における関連諸科学との総合研究

- ① 看護の質保障に関する研究
- ② 看護と医療経済に関する研究
- ③ 看護環境の動向（予測）に関する研究
- ④ 生命倫理からみた看護に関する研究

### 2 組織

構 成 員	
所 長	望月 好子（准教授）
所 員	久保 典子（准教授）、阿部 ケエ子（講師）、飯室 淳子（講師）、 坂本 優子（助教）、村田 教枝（助教 前期のみ）、井上 茂夫（事務室係長）

### 3 施設概況

総合看護研究施設（15研）があり、総延べ面積は、施設面積約30m<sup>2</sup>である。主な設備は、コンピュータ（ノート型、インターネット利用可能）2台、カラーレーザープリンター1台、複合機プリンター1台、プロジェクタ2台、デジタルカメラ2台、ラミネーター1台、ビデオカメラ2台、ビデオカメラ用三脚2台、高速スキャン1台、書画カメラ（実物投影機）1台・取り付け型電子黒板ユニット1セット、60型スクリーン1台である。図書・雑誌等は、図書館と連携し、図書館所蔵資料を活用している。

### 4 活動概要

この施設の目的は、本学の建学の精神にのっとり、看護の分野に関連する諸問題を科学的、技術的、総合的に研究し、看護の発展に寄与貢献することである。（東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設規定 第2条より）活動目標としては以下の内容があげられる。

- 1) 本学教員の看護研究活動推進に向け教員相互の研究的交流を支援する。
- 2) 本学の発展に向け本学教員が取り組むプロジェクト研究を支援する。
- 3) 臨床看護の充実・研究活動の推進に向けて地域の看護職を対象とした研究支援活動を実施する。

- 4) 地域発展への社会貢献として住民の健康支援活動を実施する。
- 5) 看護学教育および臨床看護の充実に向け本学教員の産出した研究成果を公表する機会として論文集を発刊する。
- 6) 所員相互の連携を図り、目標達成に向け本学教職員の協力を得ながら活動を推進する。
- 7) 活動内容を評価し、その成果・改善点を次年度の運営に役立つよう活動報告としてまとめる。

具体的な活動内容としては、今年度も引き続き、看護研究支援活動と地域貢献活動を実施した。

看護研究支援活動としては、本学教員のために、プロジェクト研究への支援を行った。これは、研究施設に応募のあったプロジェクト研究に対して、「プロジェクト研究に関する取決め」に基づき審査し助成金を給付するものである。また、2011 年度より発足した「研究をともに学ぶ会」を開催した。これは、各教員の研究力向上をめざし研究懇話会として、総合看護研究施設が企画・運営を担当しており、今年度は5回開催した。

地域貢献活動としては、地域の看護職への支援と地域住民への健康支援に関わる活動を実施した。

地域の看護職への支援は、地域の中規模病院に勤務する看護職の研究力向上をめざし、公開講座の開催および研究指導であるが、特に公開講座は、エクセルを用いた統計処理・分析の講座として2005年度から開催しており好評を得て毎年開催している。例年応募者が多く、今年度も受講者から良い評価を得た。また研究指導は、病院・施設等に勤務する看護職者を対象に、受講者が設定した年度内の研究目標達成に向け指導を行い、研究者の主体的な研究活動を支援した。

一方地域住民への健康支援としては、地域住民に向けた公開講座を開催した。例年、参加者の平均年齢は高いため、中高齢者の健康ニーズに合ったテーマを選定し実施している。今年度から近隣3市（平塚市・秦野市・伊勢原市）に対しては後援申請ではなく市の広報誌への掲載依頼のみ行った。広報誌へは秦野市（10/1版）と伊勢原市（10/15版）で掲載されたが、いずれも当初の希望時期より遅れた掲載であった。タウンニュースは秦野・平塚版に掲載依頼した。掲載サイズは昨年度と同サイズとし、いずれも10/3版に掲載された。近隣地区に対しては、下大槻地区、北矢名地区、鶴巻地区の自治会へ、例年通り各自治会会長経由で回覧板用チラシおよび掲示板用ポスターを配付した。本講座の情報源については、広報、タウンニュース、回覧板と回答した人で80%以上を占めるため、今後もこれらの媒体を通しての広報活動は継続することが望ましいと思われる。これらの広報活動の効果として、多くの地域住民の参加が得られ、地域住民への健康生活啓蒙活動に関する地域住民の認知度向上・健康支援活動の推進に貢献できたものとする。

東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集発刊については、2014年3月末日に発刊をめざし、論文の募集・査読依頼等を行った。また、本年度は投稿規程を見直し改訂した。投稿された原稿は、すべて査読を行い、査読結果を踏まえ本施設編集委員会にて審議し、掲載の可否の最終決定は本学総合研究機構運営委員である灰田学長が行う。今年度は、総説3題、その他1題の計4題が投稿受理され、発刊の運びとなった。

最後に施設物品については、今年度高速スキャン1台を購入した。

次に、主な実施概要を示す。

### 1) 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月8日(月) 13:30~17:00	① 報告事項 2012年度からの申し送り事項について ② 総合看護研究施設規程による本委員会の位置づけの確認 ③ 今年度の方針、活動目標、年間活動計画、役割分担 ④ その他

2	4月24日(水) 15:10~17:45	① 2013年度 活動計画について(各担当より活動計画案) ② 2012年度 決算報告 ③ 会議日程の確認 ④ その他
3	5月24日(水) 15:10~16:10	① 予算の配算について ② 各担当からの進捗状況報告 ③ その他
4	6月26日(水) 15:10~16:25	① 各活動の進捗状況報告 ・看護研究を支援する活動 ・研究をともに学ぶ会 ・公開講座A ・公開講座B ・プロジェクト研究 ② 各活動支援教員について ③ 購入希望物品の把握について
5	8月5日(水) 15:10~16:25	① 各活動の進捗状況報告 ・看護研究を支援する活動 ・研究をともに学ぶ会 ・公開講座A ・公開講座B ・プロジェクト研究 ② 2014年度予算案について
公開講座A 実行委員会	8月27日(火) 15:00~16:00	8月29日(木)公開講座A 会場準備と打ち合わせ
6	9月5日(木) 15:10~16:05	① 各活動の進捗状況報告 ・看護研究を支援する活動 ・研究をともに学ぶ会 ・公開講座B ・プロジェクト研究 ・論文集 ② 公開講座A 結果と評価
公開講座B 実行委員会	10月25日(金) 17:00~18:00	10月26日(土)公開講座B 会場準備と打ち合わせ
7	11月27日(水) 15:30~16:15	① 各活動の進捗状況報告 ・看護研究を支援する活動 ・研究をともに学ぶ会 ・プロジェクト研究 ・論文集 ② 公開講座B 結果と評価
第1回 編集委員会	12月10日(火) 11:00~12:30	① 論文集投稿規程改定案の検討
8	12月18日(水) 10:00~10:40	① 論文集投稿規程の改定について ② 論文集査読者への謝礼について ③ 物品管理について
第2回 編集委員会	1月22日(水) 13:00~14:00	① 査読結果の確認 ② 論文集の編集方針について ③ 今後のスケジュールの確認・検討
9	1月29日(水) 10:00~11:00	① 各活動の進捗状況報告 ・論文集・看護研究支援・プロジェクト研究・研究をともに 学ぶ会 ② 各係より活動報告 ③ 今年度の予算執行状況
10	3月19日(火) 10:00~11:30	① 年間活動総括 ② 次年度への引き継ぎ事項等 ③ その他 次年度の会議日程

## 2) 公開講座

## (1) 公開講座 A 看護職者対象

月日/会場	テーマ	参加者数	担当者
8月29日/ 東海大学12 号館3階305 コンピュータ 室	エクセルで統計処理『入門編』 講師：松木 秀明先生 (東海大学健康科学部教授)	49名	望月 好子、小川 景子 久保 典子、丹澤 洋子 湊田 明子、阿部 ケエ子 萱嶋 美子、千葉 美果 後藤 雪絵、坂本 優子 端山 淳子、井上 茂夫 以上12名

## (2) 公開講座 B 地域住民対象

月日/会場	テーマ	参加者数	担当者
10月26日/ 東海大学医療 技術短期大学 講堂	加齢と健康生活 第1部： 講演「わかりやすい脳活性の話」 講師：灰田 宗孝先生(本学学長・教授) 第2部：実践編 「与えよう！脳への良い刺激！！ あなたも生き生き脳活性」 ミニ講義とデモンストレーション 担当：飯室 淳子先生(本学講師)	45名	望月 好子、久保 典子 新村 直子、吉野 由美子 阿部 ケエ子、飯室 淳子 坂本 優子、井上 茂夫 以上8名

## 3) 研究支援

## (1) プロジェクト研究

## A 採択状況

番号	研究代表者	研究分担者	テーマ(研究課題)	研究申請期間
13-01	中田 芳子	新村 直子 後藤 雪絵	訪問看護ステーション実習における 実習指導者の現状	2012年度～ 2013年度 (継続2年目)
13-02	望月 好子	吉田 礼子 丹澤 洋子 湊田 明子 千葉 美果 坂本 優子	看護技術教育における効果的な 自己学習支援システムの構築と評価 —看護技術取得におけるオンライン ストレージ活用の効果—	2012年度～ 2013年度 (継続2年目)
13-03	丹澤 洋子	千葉 美果 湊田 明子 堀口 ゆかり 文珠川 由美 飯沢 正美 今瀬 繁子	看護職離職者が再就職を果たし継続 している要因に関する研究	2013年度～ 2014年度 (新規)

## B 研究成果（論文・学会発表など）

テーマ	研究者	掲載誌・発表学会（開催地）[巻(号)、頁、年.月]	研究助成期間
母性看護学教科書における「倫理」の記載状況	小川 景子 望月 好子	第 54 回 日本母性衛生学会総会 学術集会抄録集、p. 304、2013. 10	2010 年度～ 2011 年度
基礎看護学実習時の血圧測定に対する対処方法―戸惑いへの対処方法に焦点を当てて	千葉 美果 蔵本 文乃 秋元 とし子 林 真理子	第 33 回日本看護科学学会学術集会講演集、p 454、2013. 12	2010 年度～ 2011 年度
基礎看護学実習時の血圧測定の方法の検討―学生の戸惑いの場面に焦点を当てて	蔵本 文乃 千葉 美果 秋元 とし子 林 真理子	第 33 回日本看護科学学会学術集会講演集、p 454、2013. 12	2010 年度～ 2011 年度

## (2) 看護研究を支援する活動

神奈川県内 100 床以上の病院および東海大学医学部附属 4 病院に勤務する看護職者を支援対象として支援希望者およびグループを募集した。今年度は 6 件の応募があったが、途中 1 件キャンセルの申し出があり 5 件の研究を支援した。研究支援期間は、2013 年 7 月から 2014 年 2 月までであり、1 回 1 時間程度の面接指導を期間内に 4 回、本学総合看護研究施設において実施した。5 件のうち、昨年度からの継続の研究が 2 件あった。申込書の欄に昨年度からの継続である事、希望する教員名など記載されていたため、昨年度と同じ支援教員を担当とし対応した。次年度も継続しての指導を希望する場合は、申込書の「要望・質問欄」にその旨を記入してもらうようにする。また、新規応募のうち産科領域の研究支援が 2 件重なっており、専門領域教員と相談し、支援教員 1 名が 2 件担当することとした。今年度、研究支援を担当した教員は次の 4 名であった。

望月 好子（2 件担当）、阿部 ケエ子、飯室 淳子、蔵本 文乃

## (3) 「研究をともに学ぶ会」

今年度は、年度初めに日程をあらかじめ決定し、掲示した。日程および時間の設定は、総合看護研究施設所員会議のある日の夕方とし、1 回 1 時間程度で会を開催した。発表者は、教授会において募集した。また、開催日の 1 週間前に会の日時、発表者、テーマについて全教員にお知らせした。対象者は学内教員であり、参加は任意である。今年度は、昨年度の実施状況に鑑み、5 回実施した。参加者は、各回平均 10 名程度であり、発表者のプレゼンテーション後には活発な質疑ができた。また、臨床からの参加者もあり、研究に関するディスカッションを深めることができた。

## 4) 論文集の発行

2014 年 3 月 31 日、「東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集 第 23 号 2013 年度」を発行した。総説 3 題、その他 1 題の計 4 題が投稿受理され、発刊の運びとなった。

数年前より投稿原稿作成にあたりテンプレートが導入された。それに伴い、投稿規程の改定が必要となっていたため、今年度検討し改訂した。改訂にあたっては、特に投稿原稿の種類について、諸学会誌投稿規程を参考にし、原稿の種類を「論文」「総説」「報告」「その他」とした。